10.「シノドス性」(ともに歩むこと)の中で自己形成すること

質問：皆さんの教会の中で責任ある役割を担っている人々が、互いに耳を傾け合い対話しながら、「ともに旅をする」教会がさらに成長し、共同で識別と決断ができるようになるため、お互いにどのような養成ができるでしょうか。
何が妨げになるでしょうか。

次の世代に引き継ぎたいことを具体的に発信できるようにいつも心がける
識別をすることは、礼拝・祈り・みことばに触れることだと、教皇は言っている
聖職者・修道者・信徒のそれぞれの現場で神の望みを問いながら、耳を傾けたい
幼児洗礼でいつも「祈る」ことが、ずっと習慣となっている。

対面で話をすれば互いを思いやることもできるという体験をした
他者を受け入れることで気づきが生まれ、回心でき、純粋に祈れたら、知恵が与えられ、聖霊の助けで共同体が養成される
高齢や忙しさがあっても、前向きに積極的に構えていれば聖霊の助けを受けてできることを与えられる

できない、できそうにない、と思う中でも必ずできることが与えられている
一人一人ができることを出し合えば、その各部分が組み合わされ一つになれる
今できることを、みんなで協力して行い、問題点を共有し吸い上げている
福音を生きる人に宿るイエスが、聖霊を通して宣べ伝えるのが本来の有様

共同体として、「ともに歩む」努力は絶えずしており、旅の方向性、目標は共有されている
シノドスの行程はある期間限定でなく、永遠の行程
人生の終わる日まで、福音を生きているか自問する
シドノスの分かち合いの意味を司祭が理解しやすく話してくださって参考になった
10 の質問の回答について分かち合いの場がもてたことは、大きなめぐみ、ともに歩むことについて、もう少し深く味わっていきたい
なかなか集まれない日々において、「ともに歩む」気持ちをもってシノドスの祈りをしたい

一人一人が神様の大切な、神に愛されている存在であることを体験し、実感し、悟り、互いに尊重し合う
祈り、神の望まれる方向にともに向かって歩む――一致の祈りと許し合いと和解のうちに各自が日々祈りとみことばのうちに神に聴き、神との交わりにとどまることで共同体全体が成長する

10.「シノドス性」(ともに歩むこと)の中で自己形成すること

日常の中に祈りと共に歩むこと、朝昼夕の祈り、ロザリオの祈り（祈願・ウクライナのための平和の祈り）
ともに歩むために、自分の能力だけを頼らず、共に祈り合って進むこと、教会はキリストの神秘体なのだから
愛されるよりは愛することを望ませてくださいと祈ること

小教区での黙想会に指導司祭を招き、黙想指導と赦しの秘跡をお願いする
典礼、黙想会、聖書の集い、話し合い、対話
黙想会の実施
年頭書簡の分かち合いをする

お互いを知ること、互いに理解を深めること、寛容に相手のいう事に耳を傾ける
地区集会を行い分かち合いすることは大切
毎日の祈りなどで信仰を深める体験をし、分かち合いで向上し合うことで養成される
比較的小さな教会であるために、いい意味で成熟した信仰の共同体になりつつあるので、この良い伝統を生かして歩み続けたい

コロナ禍で、教会学校の子どもや保護者は、ラインやズームでメンバーのつながり持つために役立った
オンラインの講座もたくさん開かれるようになり、勉強の機会が増え、活用している

教区主催とブロック主催の聖書講座に個人的に参加しより一層キリスト教を理解する
より深く環境問題について考察するために、『使途的勧告・愛するアマゾン』の読書会を実施
今年から『回勅・兄弟の皆さん』の読書会を実施
グループ活動、奉仕活動をする
これまで通り教会の色々な活動に参加し、ともに歩んで行きたい
教区全体の研修、イベントや話し合い、お見合い、悩み相談を企画、交流を深めて、互いがつながっていく

神様を信頼して祈り、感謝と共に歩んで行くこと
自力で生きてきたつもりが多くの人に助けられてきた人生と悟り、ゆるし難い人にもゆるしを願う
隣人を愛し、許し合うこと

10.「シノドス性」(ともに歩むこと)の中で自己形成すること

〈課題〉

使徒職や自己形成について話し合う機会
いろいろな企画を考えたりして、教会に足を運んでもらえるようにする
社会の動きに合わせて祈りの輪を拡げる連絡網であってほしい
その人の出来る事、やるべき事を助ける、成長、自己形成の補助→養成する
各自が教会の重要な一員であるという自覚をもち、できることを考え自分のタレントを生かす
信徒の有する技術、能力、知識、これらを皆で共有できるようにしたい
信徒の専門、得意技能を役立てるような場をつくる
自分たちでやる意識をもち、講演依頼、信仰に関する番組を利用して皆でそれを視聴する
教会外でも役に立ちそうな情報を皆で勉強し合う集いがあってもいい

役割分担する各人ごとに責任範囲を担うことが大切な点
回りにいる人の中で聖霊の導きを感じたとき、何を望んでいるのか識別するものを
持っている必要あり
今後の教会と自分の関係、立ち位置を信徒生活の総決算をおこなうつもりで自覚することも大切

祈りと黙想で神とつながり、聖霊の助けを得て、教会の人々とともに歩んでいきたいと願う
神のみ旨に沿っているか確認しつつ、信徒各自が自我を抑制して教会の将来について相互理解、前向きに話し合う意識
共同体の活動等に関わるときのプロセスは、共同体の祈り、霊性の導きに照らされた
識別、信徒各自が小さい声にも耳を傾け、すべての問題を共有する姿勢が大切

会衆の席を向かい合わせにするか前向きにするか、他団体の人を教会に招くかどうか、一足制か二足制か、ゴミ箱を撤去するかどうか、パーティに酒を出してよいかどうか、などで何度も対立があった
話し合われ、多数決がとられ、負けた方が従うか、教会を去っていく、そんな寂しい経験があるが、負けた少数意見への配慮はなかった
会議において多数決で結論を出した時、司会者は、少数意見にもその理由の中に良いものがあった点を確認し、話し合いの成果に反映させ、少数意見も含め文章として記録し、公開する
決定事項に対する質問や反論は、「会議で決まったから」の一言で片づけず、相手の理由を聞き、その意見の良さを認め褒め、決定の筋道と理由を説明し、説得できなければ、一緒に考えていくことを提案する
互いに耳を傾けて対話の心を推進
ともに歩むために必要なことは、指導、計画、知識、夢、団結、明るい雰囲気、自由が必要
信徒が参加できる教会に少しずつでもしていきたい、そのために司祭を中心に信徒の地道な努力が必要

10.「シノドス性」(ともに歩むこと)の中で自己形成すること

規則やルールが多すぎると、ともに歩むことが難しくなる
日曜日だけでなく毎日の生活の中で自己形成を深める
愛に生きられるように各自が毎日少しずつイエス・キリストに似たものとなるよう生きる
教会を発展させるためには、みんなが神のみ旨を選択できるように祈りと力が必要
教会の刷新に参加している意識を持つ
従来のやり方、慣習、慣例に固執した考えをもつ人は妨げ

ともに歩むことが目的なので、教会に来られない人、困っている人を助ける等、各自がシドノスを意識することで養成されていく
シノドスについて考え、シノドスを通して成長できればとの希望もある
シノドスを実践することは、共同宣教司牧、共同の識別も含まれ重要

少数派のカトリック教会のメンバーがグループで固まらず、同じ信仰を持つ者同士
心を開いて、力を合わせる
同じ信仰を持っているといっても、同じ方向を向いているとは限らない
ともに歩むといって個人差があり、教会の成長、共同識別と決断が出来るために、信徒に身近な聖職者が必要
一人だけではなく、わたしたち一人一人が責任を持つということ
役員の強いリーダーシップが必要で、それが信徒の自覚をめざめさせる
互いの信頼と、信仰が基本
互いの信頼を養成し保つには、対面の必要がある

若い人たちの奉仕を育むことへの配慮、謙遜と他者への尊敬の心を持つ
中間層、青年層がいないのが不安で、心配、自分いつまで現役でいられるか心配
信徒の若返りが出来ていない現状が心配。若い世代が来やすく、入りやすい開かれた教会運営が必要
日本の教会に共通する課題として、高齢化が進み、世代交代が必ずしもスムーズにいっていない
教会共同体内の高齢者への老化対策活動づくり
日本人が少ないうえに高齢化している
小教区、ブロック全体の共通の課題（信徒の高齢化、若者の教会離れ、多国籍信徒との連携など）への対応・対策を継続検討する

自分のことだけ考える閉じた祈りになっているのか、教会に来て喜びに満ち溢れていない日がある
ミサ以外で個人レベルの交際がない、楽しいことを共にすることから始めないと現代人は集まらない

司祭中心に目標をもって、毎年行動をしているが、いつも一部の方々の働きで動いていると感じる
信徒と協力することに立ち帰ろう、司祭が信徒の状況を見られていない
共同宣教司牧、皆の意見を聞こう

10.「シノドス性」(ともに歩むこと)の中で自己形成すること

ミサから遠のいてしまっている方々の声を聴く、会話できる機会を作るようにする
自分の意見を押し付けない、他人を批判しない
まず互いに耳を傾けあえるかどうか、そこからスタートする
決めつけず、人の話にゆとりをもって耳を傾けて相手の気持ちを理解する
議論の際に自分の意見を人に訴えようとはするが、相手の身になって聞く姿勢が不足
自分と違う意見が神の言葉かも知れないと考えて、相手になぜそう思うかを尋ねる習慣を身につけたい
意見が分かれたとき、「そう教えられたから」と答える人や、「分からなくても信じるのが信仰だ」と言うような司祭がいるが、時代の違いや個々の事情や立場の違いに対応できていないと思う

地区集会や委員会では決定や報告を事務的にするばかりでよいのだろうか
行事に追われずに聖書、典礼を味わって自分のものにできる時間がほしい
思いやりをもって相手の意見を聞き、受け入れ合うこと
教会においても、自分の意見の根拠を吟味することは、不信仰ではなく、大切な態度である
妨げになっているのは、意見の違いは悪だという考え方、意見の理由を深めることは無意味だという考え方、自分の考えと違う意見は間違っているという考え方
話し合いは無駄ではなく、互いが成長するための道具であり、意見の理由を深め、愛の原則に立ち返るまで深めて考える習慣をつける、反対意見も神からの言葉かも知れないと思ってその理由を聞く習慣、他の意見はないかと聞く習慣をつける

信徒集会で分かち合いが必要
むだに思える時間やむだに思える話ができる場が必要
分かち合うことが大切、相互のコミュニケーションが大切
主日のミサに与る事が基本で、時間のゆとりは各々違いがあるので、日時を決めてテーマに沿って分ち合う時間を持つ

コロナ禍で屋内がダメなら、中庭で、茶話会を開いたらいい
役員、部会長、地区委員はリーダーとして、場を設定することが役割
黙想会などでも皆の意見を出しあって話しあう機会を作る
行事でのコミュニケーション、分かちあいなど
奉仕の体験から得られたことのわかちあいを通じて励まされ、奉仕や献金の心が育まれる
復活祭前の聖具磨きに多数の方が参加するとき、世間話ができてよい

10.「シノドス性」(ともに歩むこと)の中で自己形成すること

教会に来て仲よくする、日常的に交流をもつ
先輩信徒が年下や後輩の信徒を思いやって大切にすべき
行事の後の掃除や後片づけなどの行動を大切にする
活動を主導する人はキリストの証をして、兄弟姉妹とともに分かち合うことを心がけることが求められる
ミサの前後に談話会を開く、信徒同士の対話こそが絶対に必要
コロナ感染防止のため、集まりは中止中だが、以前のようにミサ後に一緒にお茶を楽しむことを継続できる教会

若い人の役員会の参加が必要で、若い人の意見を聞きたい
ともに歩むための若いメンバーが必要
もうすこし新しいひとへの歓迎をして、来やすくなったら、また長く来られてる方がアドバイスしてくださったら改善されるかと思う
高齢になると消極的になってしまう
高齢者に負担が集中しがち、教会内で世代交代がスムーズに行われるようになるのか、話し合う時期が来る
高齢化、若年層不足などの問題の共有化、しかしコロナ禍の現状では困難
壮年会、青年会、婦人会の復活再開による対話・絆づくりを検討する

信仰などについて自由に話し合える時間と場所を設けることが大事
連絡し、会話をすること、連帯感を養う、信徒同士が密に連絡をとりあうこと
役割のある方は聖霊に導かれ行うこと、成功をおさめても新しい人や子供が育たず身内だけになる
傷ついた人が聖霊によって立てるようになれば他者をより良く理解し互いに愛し合う家族になれる

わたしたちは常にイエスの福音をどのように生きるか、ともに考え歩んでいかなければならない
イエスとともに歩む中で自己形成をするため、福音についての分かち合いする機会を増やす
入信時の養成、幼児洗礼後、成長と共に養成すること。人生の節目・堅信・結婚などで必要
ともに旅をする教会が成長し、共同識別と決断できるために、互いに認め合い、思いやりを持つ必要あり
ともに歩むために分かち合いを重ね、旅する教会をより理解し合い、共同体にありながら、忘れ去られている教会メンバーが「ともに歩む」ために何が必要と思うか問いかける
今後、小教区運営の問題点の共有化・解決に向けて「ともに歩む」をテーマとする「分かち合い」を実施したい

10.「シノドス性」(ともに歩むこと)の中で自己形成すること

土曜学校、日曜学校、聖劇、キャンプ、他の教会訪問などの催しに魅力があったが、今は少ない
子どもの信仰教育にも、楽しいゴスペル・コンサートなど一般の人も来てもらえるような企画が必要
教会学校以外でも子どもたちへの働きかけの工夫を考える必要がある
友達がたくさんいて教会に来られないことは増えるが、友達を教会に連れてくることはない
教会学校を維持する努力が足りていないと反省
子どもたちの信仰教育、信仰継承は困難に思える

地域社会との交流のためのイベント、カトリック幼稚園保護者との交流による福音宣教活動の計画
洗礼を受けられた方が、数年たつと教会に来られなくなるのがとても辛い
外国の信徒の皆さんの協力は欠かせない
多国籍信徒との定期的な交流の集いでのグローバルな福音宣教活動が課題
外国の方が今は熱心に支えているが、言葉が妨げになっている
今後外国の人々の子弟を養成して、教会の中で責任ある役割を担って行ってくれることを、願う
ベトナム人は日本の共同体に入ってくるが、フィリピン人はフィリピン人のグループを作る

グループ同士の対話
グループの中での役割や立場を理解して、責任ある行動を体現できているか
昔はカリスマ性のある司祭や、親分肌の司祭について行けばよかった
今の教会は民主主義っぽく感じられる
日本以外でのシノドスの取り組みを知りたい

一番大事なのはイエスだという意識、イエスを助けたいと言う気持ち
イエスに倣えるか、どう働くか、弱い立場の人を助けることができるか
イエスと一緒に教会が歩んでいくために、各自が土台となる信仰に生き、主のみことばに生き、真に主と出会いつながっていること
自分の十字架を担ってキリストに従う生き方には遠い自分だが、キリストは赦し続けて下さっているので、それに倣うために信仰の道を生きる教会になるように祈る

私が愛せなくても、神様がその人を愛し、神の愛と慈しみをその人が感じ取れるようにその人のために祈る
分かち合いの機会、聖書の学習の機会、これからの教会をともに考える機会などが希望
祈り合い、メールなどを活用して、教会に人が集まれるよう努力
「受け入れる」というのが教会の姿
個々の個性は大切にしつつも、大きく包む共同体でありたいと考えている
互いに理解し合い、尊重する姿勢が大切である
対立はつきもので、結果的に去って行く人もあった、話し合うときの司会は敏感である必要がある

10.「シノドス性」(ともに歩むこと)の中で自己形成すること

自分も相手も神とともにいることを感じながら広い心を持つ努力をすることが私にとっての養成
少子高齢化が進む教会で、何よりも無関心にならないことが大切
人をカテゴリや先入観で決めつけない、隣にいる人を大事にする
信徒の生き方を見てもらい、信徒でない人に共感を持ってもらうしかない
自分の思い込みではなく人の思いに気付き、人の立場を考えるために交流が重要
方向性の一致、一つの方向、誰かが判断しないと、右往左往する
否定せず意見を言い合うことができ、共に考え、励ましあえる、雰囲気づくり
話し合いを通じて、繰り返し出てきた文言は「対話する」「聴く」
コロナ対策と並行して人との交わりを可能にするための知恵が必要

時間の無さというのは大きな妨げである
役員(責任ある役割)を担っている方は、毎回教会に来て、いつも聞く体制ではおられず、それが妨げ
信仰養成のために京都市内までいかずにすむよう小教区で分かち合いの機会がほしい
シノドスの祈りは聖霊の導きがあると思うので、すべてをお任せしながらこの祈りを唱えたい
ロザリオなどで互いのために祈り、シノドス性を実感しながら自己形成をしていく
ともに歩む小教区であるために連絡網があるが、ミサ中止や葬儀の日時のお知らせが殆どで、寂しい

ロシア・ウクライナ問題をはじめ、世界に紛争があふれ、格差は拡大していく中で、平和を求める姿勢と活動を地道に続けることが大切
ウクライナのためにロザリオ一連でも一環でも小教区として唱えようという連絡があってもよい

シノドス性の中で自己形成すること、という意味を理解するだけでも難しい
分かち合い、話し合いに慣れておらず、集まれない中で、今回の質問の意味を理解することが困難
対話できるかどうかおよびコミュニケーション不足が課題
誰もが気軽に訪れることができる教会づくり、人的・物的環境を整えること
感染者が出ないことを一番の重要事項なので、対話とか養成とかを考えられる状況ではない

10.「シノドス性」(ともに歩むこと)の中で自己形成すること

一人ひとりが教会、信仰を守っていこうという横のつながり
聖書の分かち合いのグループが少ないので、もっと聖書を勉強する機会があればよい
聖書を読み、祈りの心を忘れないこと
ミサや個人的祈り、要理の勉強や聖書、特に福音書を読むことが基本
成人信徒のための勉強会を開き、求道者の勉強に信徒も参加すべきである
信徒が参加できる研修会、黙想会等の霊的な学びの機会がほしい
勉強会や研修会の実施、資料の提供、情報の発信
オンライン聖書講座出席等を展開する
次週のミサの朗読箇所を前もって読み、話し合う機会を設ける
共に祈る機会や、聖書講座、宗教的行事、観賞会、コンサート、映画等に出かける
信徒各自の宗教的スキルを引き上げること
すべては神様につながるひとつのぶどうの木、からだはひとつを思い起こす
旧約聖書を読むグループで読むだけなく、感じたことを話し合えばよいと思う

ともに歩むために必要なことは、指導、計画、知識、夢、団結、明るい雰囲気、自由が必要
規則やルールが多すぎると、ともに歩むことが難しくなる
教会の中で派閥のようなものが出来たりするとシドノス性の妨げになる
教会内での足の引っ張り合いや誹謗中傷、これらが教会の成長の妨げの大きな原因
教会内の人間関係で悩みたくはない
先輩信徒のいわれのない横暴な発言に傷ついたことがある
教会が閉鎖的と感じたときがあり、開放的であることが望ましい

教会の一員として黙想会などに参加し自分自身を高めたいが、コロナ禍でそんな場がなくなった
自分の中で、シドノスを意識化していれば少しずつ変わっていける
自己実現ではなくキリストと共に歩んで、自分の中心にイエスがいつも存在するように
異なる意見も尊重しあう姿勢が大切、一部の中心的な人が、自身の判断を押し通そうとすることは妨げ
一つの価値で誘導せず、常に問いかけ、回答の多様性に学ぶべき時

大きな時代の変革のとき、それを乗り越えることを分かち合うことが大事
もっと教会で分かち合える時間がほしい
状況を知らせ合い分かち合う
変革のときに指導的立場にある人は慎み深く祈り、耳を傾けることが重要
聖職者の専門的知見と非信徒と交わりの機会が多い信徒の経験とのギャップを理解し認識を一致させる

10.「シノドス性」(ともに歩むこと)の中で自己形成すること

コロナ禍でブロックの活動が自粛され、分かち合いの集いも実現できていない
コロナ禍のためにコミュニケーション不足で、分かち合いも出来ず、個々に祈るだけ
コロナ終息後の教会、地区、家庭での集会の復活の検討
コロナ禍で二年ほど集まりづらく、信徒も教会も変化しようとしている
コロナ禍の教会における制限は必要だったのか疑問、教会はカテキズムへの導きに徹してほしい
コロナ禍の終息後に以前の社会活動に戻ること

失敗しても、温かくありのままを認めて受け入れてくれる雰囲気を教会が持つことが必要
間違い、失敗をしたら家族の中のことのように謝り、共に善い方向へと直してゆく姿勢をもつ
違い、人とのとらわれを越えて信仰によって一致する共同体になれるよう努めたい
互いに仕えあい、愛し合い、信仰を分かち合いながら、互いの霊性を保ち高め、自身の救いを全うし、教会のメンバーの一人として宣教の役割を果たしていく
ともに歩みたいと思う気持ちを持つこと、その為の教育・養成・仲間作り

恵みと力はミサからいただく―ミサの尊さ、聖であることを大切にし、共に祈る教会であってほしい
自由に具体策を出し合えるような場が求められる
祈り合うこと、妨げは自分の価値観に固執すること、自己保身からくる閉ざされた心、恐れ、勇気のなさ、柔軟性が大切
傲慢と自己中心からぬけること
聴くことよりも自分の思うようにしようと考えるような、自分中心となりやすい傾向が妨げ
中心がキリストであることを忘れ、自分中心にならないこと

人材の養成の必要性、信仰教育の充実
小教区の若手信徒リーダーの育成が課題
小教区の中で責任ある役割を担える信徒を呼び込んで育てていくことで小教区は成長できる
キリスト教的視点で共同体が識別できるようになるための人材が必要になる
助祭とカテキスタの早期養成が課題

権力、地位、圧力が教会の中にはあるが、神の前ではみな平等で、強きも弱きもなく、人として受け入れる
信徒歴・活動内容にこだわらない
内向きに凝り固まるのではなく、外に向かっていつも門を開いておくこと、異質のものを排除しない知恵が必要
思いやり、教会の内で自分の居場所を自覚できるようにすること
多種多様な人の集まりで、一つ共通していることは神を信じていること

10.「シノドス性」(ともに歩むこと)の中で自己形成すること

日本のカトリック教会が権威による統制を行わないようにしてほしい
忙しさや御血の拝領がなくなったため、活力がなくなった、信徒が疲れている、交わりの機会がない
日常世界とのギャップより、 先ず信徒の心の救いが始まり、信徒の教育

通常通りに教会学校の行事を行い、対面での活動、触れ合いを大切にしたい
教会に来る子どもが少なく、日曜学校など、子どもたちへの信仰伝達について心配
教会学校を活性化するため、若いお母さん方に声をかけてミサ後に教会の庭で一緒に遊ぶ
教会学校を活性化するため、おにぎり等を持ってきて教会の庭でピクニックをするなど
教会学校を活性化するため、初聖体クラスの後に親子で遊ぶ
教会に来ている人同士の間で相互に敬意を表現する訓練をする（世代を超えて）
子ども 2 人くらいと教会学校に関わる大人 2 くらいが信徒の高齢者を訪ねる企画があるとよい
教会学校は指導をお願いできる方が少なく、親も引き受けてくださらない
アニメーション映像で子どもにわかりやすく伝える手段があればよい
子どもも司祭との関りがあって、憧れや敬意や信仰が体得できると期待する

各自の生活の中で〈信仰を活かす〉という、自覚と意識が不足している、家庭における信仰教育のあり方が要因
外国人との違いは日本人のお国柄なのか、教会だけのことなのか
ともに歩むことは自己を曲げなくてはならず、その中で自己形成するとはどういうことかを考えている

一人で静かに祈りたい方もおられるので難しいが、今のままではいけないと感じている
昭和１０年代の方々もそろそろ８０歳代に突入の年代、特に女性は自己決定が苦手な方が多い
LINE や ZOOM といった方法はとてもいいと思うが、高齢者にとってはさっぱりわからない
ITの利用は必然ですが、高齢者の方を置き去りにする危険をはらんでおり、情報弱者と言われる人を出さないために、関心を持ってくれればサポートする仕掛けを作り、助け合っていくネットワークづくりを考えたい

家族の理解を得ることの困難
何をするかもっと単純に示すべきで、何をやったらよいかわからない
時代に合わせて教会も変化が必要
フィリピンの習慣で祝別されたマリア像を各家庭に定期的に回してそこに集まって祈りをする
教会の困難な現状を理解していない
義務ではなくやりがい感があることが必要
聖霊に導かれるとはいっても、委ねきれない信徒の心は克服しにくい

10.「シノドス性」(ともに歩むこと)の中で自己形成すること

司祭が多忙である現実が妨げ、司祭も信徒同様に多忙ではないだろうか
信徒は司祭の同伴を求めていて、司祭に受け止めてもらいたい思いがある
司祭の説教にも、無難な時と、熱の入った良い説教だと感じる時がある
「司教様、神父様」と「様」をつける呼称は身分差を感じさせ、ともに歩むことと相容れない
現状、減少傾向にある限られた聖職者で主日のミサ聖祭をいかに維持していくかで精一杯
京都教区の福音宣教方針（2008）を、ウイズコロナ禍時代に内容を改訂して発行するための審議を進言

ユスト高山右近列聖祈願や列聖運動を次世代に引き継ぐ
カトリック幼稚園児への「うこん紙芝居」や右近書籍コーナー設置・充実させる
右近ニュースの発行など、身近な場所での列聖運動を展開したい

〈その他〉

質問が哲学的で難解
少子化の流れ、信者数の減少にはどめはかけられない
教会の合併や部会の統合・縮小も避けられない
宗教は個人的なことなので、客を呼び込むように新しく人を呼び込んで信徒にするということもできない
コロナ禍で集会は限定され、実施しても短時間の分かち合いしかできないときに、養成について答えられない
連絡網が不十分な事があるので教会としてのホームページを作成してほしい